

昨年11月に、4年に1回開催されるアジアのオリンピックであるアジア大会が中国広州で昨年11月に開催されました。本実行委員会メンバーであり、日本ゴルフ協会ナショナルチームの委員を務める岡部太郎氏が日本男子チームの監督として参加されました。岡部氏は自身2度のアジア大会金メダル獲得メンバーであり、本トーナメント実行委員長の尾家清孝氏、第8回トーナメントの出場者では、横尾要プロ、星野英正プロ、宮里優作プロも歴代金メダリストです。下記は、若松ゴルフ倶楽部の会報誌に掲載された岡部氏の寄稿文です。韓国勢の躍進が進むゴルフ界の状況を肌で感じることができそうですし、今後中国をはじめとした他のアジア諸国の選手の躍進がゴルフ界にどのような影響を与えるのか？皆様にも成長著しいアジア各国とのメダル争いを通じて得た現場の感想を皆様にもご紹介させていただきます。

第16回広州アジア大会

岡部 太郎

昨年11月17日～20日に中国広州ドラゴンレークゴルフクラブで開催されましたアジア大会男子ゴルフ日本代表監督を日本ゴルフ協会より拝命し努めさせていただきました。

日本代表メンバーは小平智（2010年関東アマ優勝、JGTOチャレンジトーナメントでアマチュアで優勝、世界アマ代表）、松山英樹（2010年アジアアマ優勝、日本オープン3位）、川村昌弘（2009年史上最年少で中部アマ優勝、2010年世界アマ代表）、小西健太（2010年日本ジュニア優勝）の4人です。なかでも松山君は昨年のアジアアマ優勝で今年のマスターズに日本人のアマチュアとして初めて出場することや同年日本オープンでプロに交じり最後まで優勝争いを演じたこともあり、日本チームのポイントゲッターとして大きな期待を集めました。

私が監督に指名されたのは1990年北京大会、1994年広島大会において選手として大会に出場した経験を買われてのことだと思います。

北京大会では丸山茂樹氏、米倉和良氏、桑原克典氏、広島では尾家清孝氏、横尾要氏、小島礼二氏と共に出場し、二大会連続金メダルを獲得する幸運に恵まれました。

今回は監督という立場で臨むアジア大会、その責任の重さを感じつつ監督として何をすべきかということを考えました。野球やサッカーとは違い、ゴルフ競技において監督がプレー中に選手を交代させたりサインを出したりするわけにはいきません。結局のところ監督の仕事は、選手が戦いやすい環境を整えモチベーションを上げていくことだと考えました。現に私が選手として出場した際も、佐野監督（現男子ナショナルチーム委員長）は常にそういった振舞いで私たちを勝利へと導いてくれました。

試合に専念できる環境とは食事や宿泊、移動ということも大きな要素の一つです。通常アジア大会では、出場選手は全員選手村で寝泊りするのが通例ですが、今回ゴルフ競技は開催コースが広州市内からかなり離れていたことから選手及び関係者は全員コース隣接のホテルに宿泊が用意されていました。

ドラゴンレークゴルフクラブはコース全体が高級リゾートとして開発され、現在も更に拡張工事中のまさに中国バブルの象徴的なエリアです。食事は多少味付けの違和感はあるものの、ビュッフェスタイルでかなりの品数、部屋は豪華で移動は5分、この点は何も問題点はありませんでした。

コースは大きな池を絡めたフラットなアメリカ的なレイアウトのアウトコースと、山側でアップダウンのあるインコース、芝はグリーンとフェアウェイはベント系、ラフはティフトン芝、距離は7000ヤード強で特に長いというわけではありませんでした。グリーンはかなり難易度が高く最後まで日本チームを苦しめることになりました。

二日間の練習ラウンドを終えいよいよ初日、川村、小平、小西、松山の順番でスタートしていきます。序盤から全員グリーンの癖に悩まされ、最後まで攻略できずに初日を終え小平74、他の3人は皆75でチーム8オーバー（4人中3人の合計）、トップの韓国は6アンダーで初日から14ストロークの差をつけられます。

第2ラウンドは小平のショットが冴え68をマーク、小西が安定したゴルフで72、しかし、なかなか調子のつかめない松山と川村が77と78で小平のアンダーを吸収してしまいチーム1オーバー。この時点で日本チームは韓国、フィリピン、インド、に次いでタイと並び4位。韓国は信じられないほど完成されたゴルフでこの日はチーム8アンダー、完全に力の差を見せ付けられます。

夜のミーティングで、「ここまで来て手ぶら（メダル無し）で帰るわけにはいかない、日本チームの一員としての誇りを持ってプレーしろ」と檄を飛ばし、なんとか選手の気持ちを鼓舞しようとします。しかし精神論で上手くいくほどゴルフは甘くはありません。

第3ラウンド 松山70、小平73、川村75、小西75

最終日 松山72、小平73、川村74、小西76

通算14オーバーでトップの韓国に36ストロークの差をつけられ6位に終わってしまいました。

1位	韓国	842	2位	インド	874
3位	台湾	875	4位	タイ	875
5位	フィリピン	877	6位	日本	878

しかし銀メダルのインドにわずか4打差で銅メダルの台湾に3打差というメダルまで紙一重の結果だけに大変悔しい思いでした。

かつて、日本のアマチュアゴルフはアジアナンバーワンの座に君臨していました。しかしここ数年、韓国を初めとする諸外国の台頭にその座を奪われつつあります。これは決して日本のレベルが低下しているわけではありません、現に国内の学生やジュニアのトーナメントの優勝スコアは4ラウンド2桁アンダーが当たり前前の時代です。高校生でもドライバーでかるく300ヤード近く飛ばす人も珍しくありません。しかしアジアの、特に韓国のゴルフはそれ以上の速度で進化していると言わざるを得ません。実際に、私が出場した頃の選手と今の選手とではまるで体格が違います。ゴルファーというより水泳か格闘技の選手と言ってもおかしくない様な逆三角形の体型の選手が沢山いました。

女子プロの世界では、既にアメリカLPGAツアーの主役は完全に韓国人選手に奪われています。

今後、日本のアマチュアゴルフがアジアのなかで再び主役に返り咲くためには、長期的展望のもと、ゴルフ界全体であらゆることに取り組む必要があるのだと強く感じました。そして、2014韓国仁川アジア大会の表彰式では再び日の丸が揚がることを願ってやみません。

7位以下の順位

7位	中国	8位	シンガポール
9位	香港	10位	バングラデッシュ
11位	マレーシア	12位	スリランカ
13位	レバノン	14位	カタール
15位	サウジアラビア	16位	ベトナム
17位	マカオ	18位	ネパール
19位	モンゴル	20位	アフガニスタン